

# 水産情報

No. 1001

平成27年 2月17日

## 部会名でカーに要望

### 西日本地区塩干魚業務部会 棒ダラの不備発生で

全水卸組連・全国水産物卸組合連合会の西日本地区塩干魚部業務部会が、傘下11組合の統一意見として、棒ダラのメーカーに対して、同部会名で要望をおこなう事を決めた。

これは7日、大阪市中央市場(業務管理棟)で、商品に、乾燥の不備のため開かれた26年の年末商戦の、いわゆるズルが、などを反省、総轄する同発生、返品や代品の手当部会で、棒ダラの不良品など、年末ぎりぎりまで発生が問題となり、協議関係者は、天手古舞さの結果、関係メーカーにせられ、販売ロスも大き対し、部会名で要望する事を決めたもの。

一方、市場によっては、原因は一部メーカーの当役員ら、事務局を含め、商品に、乾燥の不備のため開かれた26年の年末商戦の、いわゆるズルが、などを反省、総轄する同発生、返品や代品の手当部会で、棒ダラの不良品など、年末ぎりぎりまで発生が問題となり、協議関係者は、天手古舞さの結果、関係メーカーにせられ、販売ロスも大き対し、部会名で要望する事を決めたもの。



このあと、昨年における正月用品の取引等について、①数の子(大阪本場)、②棒たら(京都藍干)、③田作(名古屋水産)、④鮭(神戸海産)、⑤煉製品(大阪府水産)、⑥カニ(大阪東部)の6アイテムについて、担当組合員カッコンの関係者が報告、説明した。

「利益確保が厳しい状況に、(数の子)の家正月を過す家庭が多く、確実な需要が感じられた(棒たら)、「年内後半からの入荷では袋詰め作業に遅れが生じ、チャンスロスを引きかねた(田作)、「ループル安からロシアへの搬入もストップされており、今後、価格面では不透明な部分がある(鮭)」「消費税増税などにより、実質可処分所得の伸び悩み等

## 記者席



### 遂に姿を消す 市場の薬局

中央市場で健康を守ってきた。大阪市場で長らく営業していた薬局、備に、附属棟から業局一中央業務管理棟1階に移転、後店(局)が、継者の市原保子さんの声で、珍しいとされた。掛けも、市場の物物の一つとして、つとめられていた。古く、市場に入場したのは戦後間もない昭和24

中央市場新聞 2月13日

中央市場新聞

2月13日

## 中之島漁港「オープン」

18日、大阪・中之島「中之島漁港」(イメージ)

【大阪】鴨フィッシャー・マンズマーケットは18日、大阪府豊川市に、港と街をつなぐ鮮魚取引所「中之島漁港」をオープンする。安治川を挟み大阪府中央卸売市場本場の対岸で、福川を結ぶ都心臨海リゾートの形成を目指す一般社団法人水都大阪パートナーズが用地を借り受けた。

午前10時から午後5時、中之島みなと食堂は18日が午前11時から午後10時、19日から22日が午前10時から午後10時、(例)R・E・T・O・W・Nでは、3月中旬に天橋に寿司酒場業態の店舗を開店する予定で、同店でも中之島漁港の食材を活用、同業態の店舗を早期に店舗展開することも計画している。

## 港と街をつなぐ鮮魚取引所

同社は飲食店などを運営する例R・E・T・O・W・N(松本繁雄)と漁業・水産加工業などを手がける(例)カワノイ(高須清光社)が共同出資。

「新鮮な魚が並ぶ、一般消費者もプロの料理人など誰でも手軽に高鮮度・高品質・おいしい魚が購入できる。」

現在協力予定の出荷者産地は、北海道、雄勝(宮城)、安東(三重)、網代(鳥取)、岩屋、明石浦(兵庫)、宮崎、阿久根、串木野、枕崎(鹿児島)など、今後順次拡大していく。

新鮮な魚が食べられる飲食店「中之島みなと食堂」は、日替りの海鮮

